"Ross Anonymous" の名で知られる シャー・イスマアイル一世の傳記の製作時期について

羽田亨一

はじめに
一 E. Denison Ross および Ghulām Sarwar による TI の研究
二 TI がタフマースブの即位直後に書かれた可能性について
三 TI が十六世紀半ばに書かれた可能性について
四 TI 中に見られる詩句を通した TI の制作時期の考察
おわりに

はじめに

本稿でその製作時期について考察するペルシア語史書はサファヴィー朝の創設者シャー・イスマアイル（八九二―九三〇／一四八七―一五二四、在位九〇七―九三〇／一五〇一―一五二四）の年代記である。この作品の現存二寫本(1)のいずれにも題名が記されていない。ために、その最初の紹介者にちなんで "Ross Anonymous"、あるいはその内容に基づいて "Tārix-e Šāh Esmaʿīl-e Ṣafavī" と呼び習わされてきた。本稿では、TI と略記する。

その内容構成は大略以下の通りである。(1)神、預言者への讃辭(p.3)[2]、(2)シーア派第七代イマーム、ムーサー・アル・カーゼムからシャー・イスマアイルに至るサファヴィー家の系圖(pp.3—5)、(3)シャー・イスマアイルの十三代の祖フィールーズ・シャーからシャー・イスマアイルの兄ソルターン・アリーに至るサファヴィー家・サファヴィー・スーフィー教團の長たちの略傳(pp.5—58)、(4)シャー・イスマアイルのギーラーン逃避(八九九／一四九四)から逝去(九三〇／一五二四)までの歴史(pp.58—611)、(5)シャー・タフマースブの卽位、同王の長生と國家の繁榮祈願(pp.611—2)。

一　E. Denison Ross および Ghulām Sarwar による TI の研究

この編年體で書かれた詳細なシャー・イスマアイルの傳記を最初に世に紹介したのは、E. Denison Ross である。[3] 彼は TI の著者をサファヴィー家と密接な關係を持ち、サファヴィー朝イランに關する直接情報を有する人物とし、その製作時期はイスマアイルの長子で、その後繼者であるシャー・タフマースブの卽位(九三〇／一五二四)から程ない時期、もしくは十六世紀中頃とした。また、全體的には Xᵛānd-amīr 著 *Ḥabīb al-Siyar* に依據しつつも、同書に見られない地理・傳記的情報を數多く含んだ貴重な史料である、と述べ、その史料價値の高さを強調した。

ロッスに次いで TI についてやや詳しい解說を施したのは Ghulām Sarwar である。[4] 彼は著者が Bijan …… という名前の人物であることおよびその製作時期がロッスの考える如くシャー・タフマースブの卽位直後ではなく、九四七／一五四〇年から九五五／一五四八年の閒であることを指摘した。その史料價値に關してはロッスと同じ見解をとっている。

ロッスおよびサルワルの如上の見解は他の研究者たちに容認され、TI はシャー・イスマアイル時代のイラン史研究にとって最も重要な史料の一つとして利用されてきた。しかし、以下に述べるごとくロッスおよびサルワルによる TI の作成時期決定の根據ははなはだ曖昧である。生歿年・經歷・人となり等一切不明な作者によって書かれた TI の史料價値はその作成時期によって大きく左右されるので、以下、TI の製作時期について檢討してみる。

二　TI がタフマースブの即位直後に書かれた可能性について

ロッスが TI の製作時期として二つの可能性すなわちサファヴィー朝第二代の王シャー・タフマースブの即位（九三〇／一五二四）から程ない時期と十六世紀半ばを擧げたことは既に述べた。第一の時期は TI がシャー・タフマースブの即位の記事で擱筆されていることに基づくものであるが、同じくシャー・タフマースブの即位記事で終っているシャー・イスマアイルの年代記 *'Ālam-ārā-ye Šāh Esmā'īl*[5] の書かれたのが一〇八六／一六七五―六であることからも明らかな通り、TI の末尾の記事は、同書の製作時期がシャー・タフマースブの即位以後であったことを示す確實な證據とはなりえても、即位直後であったことの證據とはなりえない。

三　TI が十六世紀半ばに書かれた可能性について

では、TI の製作時期を九四七／一五四〇年から九五五／一五四八年の間に設定するのはどうであろうか。九四七／一五四〇年という日附はテキスト中の次の記事に基づいている。

Dar sane-ye sab' o arba'in o tes'a me'a ke Moḥammad Homāyūn Pādšāh az Bangāle morāje'at namūd va Šīr Xān-e Afġān az 'aqab-e ū dar āmade dar kenār-e āb-e Ganga fī mābein moḥārebe ettefāq oftād va šekast bar Moḥammad Homāyūn Pādšāh rasīd. Mīrzā dar hengām-e farār dar āb-e Ganga ġarq šod. (pp. 554—5)

九四七年、Moḥammad Homāyūn 王がベンガルから引き返す時、後方よりアフガン族の Šīr Xān が現われ、ガンジス河畔で兩者の間に戰鬪が行われた。（戰いは）Moḥammad Homāyūn 王の敗北の裡に終った。Mīrzā（=Moḥammad Zamān Mīrzā' ティームール朝の Mīrzā Ḥosein Bāyqarā の孫）は逃走に際して、ガンジス河で溺死した。

ロッスは「話の本筋から逸脫した」この部分はテキスト筆寫者によって書き加えられた可能性があると言う。[6] これに對

して、サルワルは British Library 藏本（Or. 3248）には、‘bande-ye kamtarin（最も卑小な僕＝私）’という表現を含み、明らかに著者自身の手になると思われる欄外書き込みが施されており、テキスト中に著者自身のものでない文章が混入している場合には、その旨注記されている。この部分に何ら注が附されていないことから推して、それが著者自身のものであることは疑いない、と主張する。(7) サルワルのこの見解を覆すに足る事實は見當たらず、TI が九四七年以後に書かれたのは確實だと思われる。

問題は A.H. 九五五年である。これは Xᵛānd-amīr の息子 Maḥmūd が題名不詳のシャー・イスマアイルとシャー・タフマースブの歴史（以後 ZHS と略記）(8) の執筆を開始した年である。ロッスは TI, ZHS 両書の最初の十葉ばかりにおける同一・類似點を幾つか擧げた上で、ZHS の著者が TI を利用したと斷定した。(9) サルワルもロッスの見解を踏襲している。

しかし、ロッスのこの見解は、彼が TI はシャー・タフマースブ時代の早い時期に書かれたという先入觀を持っていたために出てきたものに違いない。兩書の相似は決して TI の方が ZHS より前に書かれたことを物語るものではない。次の例を見てみよう。1、2はそれぞれ ZHS, TI を示す。

1. Az ba‘ži ṣeqāt estemā‘ oftād ke čon faṭḥ-e Qarši be ḥoṣūl peivast, sepāh-e Qezelbāš be ešārat-e Amīr Najm tīr-e Sādāt-e ān velāyat bā ‘ayāl o aṭfāl panāh be masjed-e ferestādand ke mā az monta-

2. enteqām az niyām kešide, be qatl-e ‘āmm mašrūl šodand. Sādāt-e ān velāyat bā ‘ayāl o aṭfāl panāh be masjed-e

1. jāme‘ borde, kas nazd-e Amīr Moḥammad b. Amīr Yūsof Yūsof ṣadr-e Xorāsān ferestādand ke mā az monta-

2. jāme‘ bordand va kas nazd-e Amīr Moḥammad

1. sebān-e xānedān-e nobovī va mansūbān-e selsele-ye Mortażavī-īm va yaqīn ast ke olūs-e Qezelbāšiye xᵛod rā
2. sebān-e xānedān-e Mortażavī-īm va yaqīn ke Qezelbāš xᵛod rā

1. moḥebbān-e Moṣṭafaviye mīdānand lāyeq ān ke keifiyat-e aḥvāl-e mā rā be ʻarż-e Amīr Najm rasānīde
2. az moḥebbān-e Heidar karrār mīdānand lāyeq ān ast ke aḥvāl-e mā rā be ʻarż-e Amīr Najm rasānīde

1. mā rā bā ʻayāl va aṭfāl az qatl-e qātelān-e bā·vabāl īmen sāzīd.
2. ʻayāl va aṭfāl-e mā rā az qatl īmen sāzī.

1. Mīr Moḥammad pas az eṭṭelāʻ bar īn nesbat, nazd-e Amīr Najm rafte, xūn-e seiyedān-e maẓlūm rā az ān
2. Dar javāb, čon aḥvāl-e išān rā ʻarż namūd,

1. ẓālem-e mouhūm darxᵛāst namūd. Baʻd az ʻarż-e in eltemās, ān rū·siyāh-e ḥaqq·nāšenās dar javāb-e amīr-e
2. Amīr Najm be Amīr

1. mašāron-alayh bar zabān-e siyāsat bayān āvard ke γāziyān molkī rā ke be jang mīgīrand sākenān-e ān rā
2. Moḥammad Yūsof bar zabān āvard ke γāziyān molkī rā ke be jang mīgīrand

1. az xord o bozorg košte, molāḥeẓe -ye
2. xord o bozorg va gonāhkār o bīgonāh hame dar pā-ye yek dīgar košte mīšavand va molāḥeẓe va tašxīṣ-e

1. seiyed o qeir-e seiyed nemīnamāyand.
2. seiyed o qeir-e seiyed va Šīʻe o Sonnī nemīkonand.

1. Ẓalame-ye Qezelbāš ke az ān jāhel-e faḥḥāš in soxan šenīdand , tīγhā kešīde be masjed-e jāmeʻ-e ān
2. Čon Qezelbāš az Najm in soxan šenīdand , be masjed

1. balade dar āmadand va tamāmī-ye ān seiyedān-e maẓlūm-e maḥrūm rā bā zanān o farzandān va kabīr o ṣaġīr
2. dar āmade, majmū‘ ān sādāt rā
1. be qatl rasānīdand.
2. be qatl āvardand.

(TI p. 215, ZHS f. 63b.)

幾人かの信頼できる人から次のように聞いた。カルシー攻略に成功するや、キズィルバシュ軍はアミール・ナジュムの命令によって報復の刃を鞘から抜き放って、大殺戮を行った。その地のセイエドたちは妻子共々大モスクに避難して、アミール・ユーソフの子アミール・モハンマドの許に人を送って、「我々は預言者の家系の者、アリーの血筋の者であります。キズィルバシュ部族は自ら預言者ムハンマドの子孫の友をもって任じているに相違ありません。我々のことをアミール・ナジュム様に傳え、妻子共々我々を罪深い殺戮者たちの手から救って頂きたい」と言った。ミール・モハンマドはそれを知るや、アミール・ナジュムの許に赴いて、不憫なセイエドたちの血を流さぬよう常軌を逸した暴虐者に嘆願した。この嘆願がなされるや、條理をわきまえぬ罪深い男は前記のアミールに答えて斷固として「聖戰の士は戰いによって國土を取るや、その住民を老いも若きも亡き者にし、セイエドであるかどうかに頓着しない」と言った。キズィルバシュの暴虐者たちは邪悪な愚者からこの言葉を聞くや、抜刀し、大モスクに入って哀れなセイエドたちを妻子・老幼共々皆殺しにした。(10)

この事件が起こったのは九一八／一五一二年すなわちマフムードがZHSの執筆に着手する三十七年前のことである。したがって彼がこの話を老人たちから聞いた可能性は十分にある。このことを念頭に置いて、上の記事を讀めば、他人からの傳聞として語られ、文章としてもより纏まっているZHSのほうがTIより早く書かれたと考えることも可能である。これ以外にも、マルヴ近郊でサファヴィー朝軍とウズベク軍が戰った時(九一六／一五一〇)、シャー・イスマアイルの命

令一下シェイバーニー・ハーンの遺體を爭って食べるキズィルバシュ軍將兵についての記述（TI pp. 380—81, ZHS f. 58b）、タフマースブの誕生（九一八／一五一三）の記述（TI p. 438, ZHS f. 67b）、チャールデラーンの戰い（九二〇／一五一四）の際にイスマアイルがオスマン軍の勇者 Malyūč-oylū を一刀のもとに兜もろとも頭頂から喉元まで兩斷した話（TI pp. 497—499, ZHS f. 70b）など、TI, ZHS のいずれか一方が他方を使ったと考えざるをえない記述が少なからず存在する。しかしながら、いずれの場合も TI, ZHS のうちどちらが先に書かれたか斷定するのは困難である。

四　TI 中に見られる詩句を通した TI の製作時期の考察

では、TI 中の詩句はその作製時期決定の鍵にならないであろうか。TI の隨所に插入されている韻文二三二と同一の詩句がシャー・イスマアイル時代を扱った他の史料に見られないか調べた結果が次の表である。なお、紙數の關係上第一半句のみを示し、その譯文は省略した。また、表中の略號・括弧内の數字はそれぞれ次の史料と頁數を示す。

AT: Ḥasan Beig Rūmlū, Abd al-Ḥosein Navā'ī(ed.), *Aḥsan al-Tavārīx*, Tehran, 1357 A. H. S.

HS: Ṛiyāṣ al-Dīn b. Homām al-Dīn al-Ḥoseinī (X'and·amīr), *Ḥabīb al-Siyar fī axbār afrād al-bašar*, vol. 4, Tehran, 1333 A. H. S.

LT: Yaḥyā b. 'Abd al-Laṭīf al-Qazvīnī, *Lobb al-Tavārīx*, Tehran, 1314 A. H. S.

TA: 'Abdī Beig Navīdī Šīrāzī, *Takmelat al-Axbār*, Central Library of Tehran Univ. photo No. 5969. なお Moḥammad Taqī Dāneš·pažūh, *Fehrest-e mikrofilmhā-ye ketābxāne-ye markazī-ye dānešgāh-e Tehrān*, vol. 2, p. 35 には *Tarīx-e 'Oṯmānī va Ṣafavī va mo'āṣerān* という名で紹介されている。

TAA: Eskandar Beig Torkamān, Īraj Afšār (preface & indices), *Tārīx-e 'ālam·ārā-ye 'Abbāsī*, 2vols., Tehran, 1334 & 1335 A. H. S.

TIN: Xᵛoršāh b. Qobād al-Ḥoseinī, *Tārīx-e īlčī-ye Neẓām Šāh*, Central Library of Tehran Univ. Ms. 4323.

TJ: Qāżī Aḥmad Ɣaffārī Qazvīnī, *Tārīx-e jahān·ārā*, Tehran, no d.

TzS: Sām Mīrzā Ṣafavī, Rokn al-Dīn Homāyūn·Farrox(ed.), *Taẕkere-ye toḥfe-ye Sāmī*, Tehran, no d.

TzT: Šāh Ṭahmāsb, 'Abd al-Šokūr(ed.), *Taẕkere-ye Šāh Ṭahmāsb*, Berlin, 1343 A. H.

XT: Qāżī Aḥmad Qomī, Eḥsān Ešrāqī(ed.), *Xolāṣat al-tavārīx*, 2vols., Tehran, 1359 & 1363 A. H. S.

001	xodā yā jahān pādšāhī to rā-st (3)				
002	har ān soxan ke bovad moqtaren be ṣedq o ṣavāb (93)		AT (44)		
003	har ke dar kārhā bad andīšad (94)		AT (44)		
004	gomān-e bad andar ḥaqq-e nīk·xᵛāhān (96)		AT (46)		
005	be joz mordan ātaš tamannā nadāšt (97)		AT (47)		
006	rasīdand az har ṭaraf sarvarān (104)	HS (451-2)			
007	čo gonješk bā bāz bāzī konad (105)	HS (452)			
008	dar ān marɣzārī čo bāɣ-e behešt (106)	HS (452)			
009	be emdād o toufīq-e parvardegār (108)	HS (454)			
010	ze šah rāyat-e jang afrāxtan (108)	HS (454)			
011	bar afrūxt az nūr-e eqbāl-e čehr (108)	HS (454)			
012	šah-e kāmrān-e falak eḥtešām (109)	HS (454)			
013	kafanhā be gardan dar āvīxte (109)		AT (62)		
014	ṣaf ārāst nāgah sepāh-e gerān (116)	HS (487)			
015	ɣażanfar·šekārān-e rūz-e maṣāf (116)				
016	malaxhā-ye peikān be parandegī (116)				TAA (55, 175)
017	bar angīxtand asb o āmīxt gard (117)	HS (458)			
018	ze bas ke rūz-e daɣā adham-e to javalān kard (118)	HS (458)			
019	savārān e Šīrvān dar ān rastaxīz (118)		AT (65)		

020	šah čon tīγ bar kešad ze niyām (120)	HS (459)			
021	goẓašte saraš z āsemān bī·gomān (122)		AT (66)		
022	šod ʻāzem-e bāγ Xosrou gol (123)	HS (461)			
023	gorūhī qavī·čang o čālāk·pīše (124)		AT (67)		
024	ze šast-e γāziyān-e nāvok·andāz (124)	HS (461)			
025	delīrān-e jangī čo pīlān-e mast (126)		AT (67)		
026	ke šāhā bebaxšā'i bar jān-e mā (126)	HS (461)			
027	ṣabiyun min al-ṣebbīyāne lārāyun ʻendahu (128)			TJ (265)	
028	k ay šah-e kāmrān-e ʻadl·siyar (131)	HS (462)			
029	delīrān-e jangī dar ān dār o gīr (134)				
030	kūh rā dar dīde garče rafʻat ast (137)	HS (464)			
031	ṣobḥ ke šod Xosrou bīżā ʻalam (137)	HS (464)			
032	be tousan bar āmad šah-e kāmrān (138)	HS (465)			
033	čo tīre šavad mard rā rūzegār (139)		AT (363)	ZHS (151a)	TAA (448), XT (283)
034	hame noujavānān-e razm·āzmāy (139)				
035	ẓafar ham·ʻenān noṣrat andar rekāb (139)	HS (465)			
036	čo šod ān do fouj-e qiyāmat šokūh (139)				
037	ze bas ātaš-e šūr o šar dar gereft (140)				
038	dar o dašt az seil-e xūn tar šode (140)		AT (83)		
039	čo peikār-e jang·āvarān šod derāz (141)		AT (84)		
040	tond·rou hamčon sepehr o bārkeš hamčon zamīn (141)		AT (467)		
041	be šamšīr-e kīn šāh-e Ḥeidar maṣāf (142)	HS (466)			
042	vazīd az γāyat-e faẓl-e elāhī (143)	HS (466)			
043	v ān ke begorīxt har kojā ke gorīxt (143)	HS (466)			
044	ze bas tīr šod bar šotor jāyegīr (144)		AT (84)		
045	jahāngīrī ke hast az baxt sarmad (145)	HS (467)			

046	afsar ze sar-e to gašt nāmī šāhā (146)	HS (467)			
047	ze enṣāf-e ān ʻādel-e dād·deh (146)		AT (85)		
048	čon abr-e bahār šod goharbār (158)	HS (485)			
049	majlesī čon behešt-e jān·parvar (158)	HS (474)			
050	šod az feiżān abr-e neisān (162)	HS (470)			
051	be loṭf-e pādšāh-e bande·parvar (162)	HS (491)			
052	doulat hame z ettefāq xīzad (164)			TAA (256)	
053	xerad·pīše o zīrak o kārdān (164)		AT (90)		
054	forūzande-ye tāj o taxt-e Kiyān (167)		AT (90)		
055	šāh-e ʻālam·panāh-e šīr šekār (169)	HS (470)			
056	ṣobḥ ke xᵛoršīd ʻalam bar kešīd (169)	HS (471)			
057	yekī tīz·rou čon šahāb ašbahī (170)		AT (92)		
058	jahāngīr-e dīn·parvar-e nāmdār (170)	HS (471)	AT (92)		
059	va z ān sū moxālef ze xavaf-e talaf (171)	HS (471)			
060	čo daryā-ye jūšān be hengām-e mouj (171)		AT (92)		
061	be gardūn bepīčīd gard-e nabard (171)		AT (93)		
062	yalān az do jāneb dar ān rastaxīz (172)	HS (472)	AT (93)		
063	dar ān jang az dastbord-e yalān (174)	HS (472)			
064	be ṣad ḥīle solṭān-e bargatše·ḥāl (175)		AT (95)		
065	naẓar kon be kār-e qażā o qadar (179)				
066	mohaiyā gašt xᵛānhā-ye moraṣṣaʻ (191)	HS (474)			
067	ke čon bād-e nourūz šod mešk·sāy (195)		AT (101)		
068	qalʻe hamčo qolle-ye Alvand (197)	HS (475)			
069	čenān sūde-aš kongore bar sepehr (199)		AT (103)		
070	be mażbūṭī-ye qalʻe az rāh raft (200)		AT (130)		
071	benā-yaš čo delhā-ye sangīn·delān (204)		AT (105)		
072	naxostīn sū-ye sang bordand dast (206)		AT (106)		

073	šod az dūd čon šab fażā-ye falak (208)		AT (107)		
074	qafas·vār bā sīne-ye čāk čāk (210)		AT (108)		
075	čenān bud ke šamšīr čon qaṭre-ye āb (215)		AT (112)		
076	xadang-e delīrān-e Rostam·kamān (215)		AT (112)		
077	az ān tīz·rou xeil-e ā'īn-e šetāb (220)		AT (114)		
078	pei ṣeid o šekār-e šahrīyārān (230)	HS (481)			
079	šah-e por·del be nūk-e nīze o tīr (232)	HS (482)			
080	būstānī-st ke ṭāvūs-e malāyek har dam (233)	HS (482)			
081	čo xaṭṭ-e botān sabze-aš delgošā (234)	HS (483)			
082	banafše qad-e xᵛīš darham kešīd (235)		AT (501)		
083	bar āmad ze har gūše āvā-ye kūs (242)				
084	šekoftand golhā be farr o šokūh (244)		AT (235)		
085	dar ān rūz šāh-e Soleimān·sarīr (245)	HS (486)			
086	laškar-e ẓālem-e żalālat·kīš (246)	HS (486)			
087	mobāhī be loṭf-e elāhī hame (246)	HS (486)			
088	ravān šod be eqbāl šāh-e jahān (247)	HS (486)			
089	dar ā'īn-e šāhān o rasm-e Kiyān (249)			TAA (387)	
090	palangaš ze xūn-e šafaq xᵛorde šām (250)		AT (124)		
091	do laškar hame aǰdahā o nahang (253)				
092	ze bas košte gaštand har do gurūh (254)	HS (487)			
093	rūz-e dīgar ke tark-e zarrīn tāj (254)				
094	berūn āmad mehīn-e šahsavārān (255)				
095	be bād-e γażab ātašī bar·forūxt (256)	HS (488)			
096	namūd āftāb-e kavākeb sepāh (264)		AT (127)		
097	čenān dar del o dīde jā karde'ī (269)	HS (491)		ZHS (89a)	
098	ze loṭf-e pādšāh-e bande·parvar (270)	HS (491)			
099	bar āvard šāx-e šokūfe ʿalam (270)		AT (139)		

100	namūdār gašt az γobār-e samand (275)		AT (252)		
101	jahān sar be sar gašte daryā-ye xūn (276)		AT (140)		
102	šetābān šod ān seil-e daryā·šokūh (283)		AT (137)		
103	gorīzān bad andīš az āvāze-aš (283)		AT (137)		
104	ke ey šāh-e falak·qadr-e javān·baxt (285)	HS (494)			
105	begoft ey tājbaxš-e pādšāhān (287)	HS (495)			
106	bar āmad foγān z āsemān o zamīn (291)		AT (138)		XT (94)
107	ravān gašt šāh-e boland·martabe (294)	HS (497)			
108	xadang-e balā fetne-angīz šod (295)	HS (497)			
109	rūbah nabovad ḥarīf-e sarpanje-ye šīr (296)	HS (497)			
110	zehī jouharat gouhar-e āsmānī (305)		AT (147)		
111	golgūne'ī 'āreż-e botān šod (306)	HS (501)			
112	bar afrāxte rāyat-e sarvarī (306)	HS (501)			
113	kongor-e ū hast zabān jomle tan (308)	HS (502)			
114	čerāγī ra ke īzad bar·forūzad(326)		AT (73)		TzT (61)
115	har rūz yekī ze dar dar·āyad ke man-am (342)	HS (437)	AT (131)		
116	az šo'le-ye šam' har senānī (344)				
117	falak rā sar andāxtan šod serešt (344)		AT (610)		
118	bar īn āstān har ke mālad jabīn (346)				XT (608)
119	xᵛoš gereftand ḥarīfān sar-e zolf-e sāqī (347)		AT (325)		TAA (207)
120	mā rā ṭama' be molk-e 'Arāq-e xarāb nīst (354)		AT (145)		XT (100)
121	har kas ze jān γolām-e Šah Bū·Torāb nīst (354)		AT (145)		
122	javān o javān·baxt o roušan żamīr (356)		AT (149)		
123	doulataš andar rekāb o fatḥ esteqbāl-e ū (357)		AT (150)		
124	ze żarb-e senānaš falak pošt xam (357)		AT (150)		
125	yek ṭavāf-e daraš az qoul-e rasūl-e 'Arabī (358)				XT (108), TIN (33)

126	yekāyek tīγ·zan čon narges yār (358)		AT (151)		TIN (39)
127	ke ey behtarīn sāye-ye kardegār (359)				
128	gar del o dast baḥr e kān bāšad (359)	HS (506)			
129	be tā'īd-e ḥaqq naqd-e šāh-e Najaf (360)	HS (506)			
130	malek·mānand o dīv·ā'īn falak·ta'ṣīr o kūh·ālat (362)		AT (152)		
131	ze golbāng-e šīr·afkanān-e delīr (362)		AT (153)		
132	šah-e roušan·żamīr-e pāk·bāṭen (364)	HS (508)			
133	joz separ naqšī nemīgardīd ān dam dar xiyāl (366)		AT (155)		
134	čo ṣobḥ az miyān tīγ·e kīn bar kešīd (366)		AT (154)		
135	ze darvāzehā šūreš angīxtand (366)		AT (155)		
136	zamāne dar-e roušanī bāz kard (367)				
137	bovad ẓāher forūγ-e in ma'ānī (369)	HS (509)			
138	harče rāyaš naqš bandad bar żamīr (369)	HS (509)			
139	ān ke delaš mahbeṭ-e nūr-e xodā-st (370)	HS (510)			
140	γobār-e kū-ye ū rā mīšenīdam koḥl-e bīnā'ī (371)	HS (510)			
141	ze nāmūs o nāmat agar sar beh ast (373)		AT (157)		
142	az ān bī·xabar andar ān dār o gīr (374)	HS (511)			
143	čo šāh-e jahān·gīr-e 'ālī-makān (375)	HS (512)			
144	kabūtar ke kīn āvarad bā 'oqāb (376)	HS (452)			XT (256)
145	az ān sū'ī xān-e qiyāmat šokūh (376)		AT (158)		
146	dam-e nā'i por šod bar īn sabz kāx (376)	HS (512)			
147	čenān tīre šod mehr-e'ālam·forūz (376)	HS (512)			
148	ze romḥ-e γāzīyān-e moukab-e šāh (377)	HS (512)			
149	az nahīb-e mār o mūr nīze o šamšīr-e šāh (378)		AT (159)		
150	hamāvard sū-ye hamāvard šod (378)				
151	ṣaf-e ān gorāzān gorīzān šodand (379)		AT (160)		
152	naqd-e Ḥeidar Šāh Esma'īl ān šāhī ke hast (384)				

153	bovad tārīx-e qaṭl-e ūzbek o fatḥ-e xorāsānaš (384)				TzS (194–5)
154	mennat īzad rā ke az molk-e ʻArāq (384)				XT (114)
155	az in bešārat-e xorram ke nāgehān āmad (388)	HS (514)			
156	šāh-e mālek-e reqāb-e xeir·andīš (392)	HS (516)			
157	bā qażā kār bar nemīāyad (395)				
158	čon gašt bahār ʻālam afrūz (396)	HS (517)			
159	šod afrāxte xargah o sāyebān (396)	HS (517)			
160	kay qodve-ye dūdmān-e solṭān-e Najaf (397)	HS (518)			
161	ze dast-e sāqīyān-e māh·roxsār (399)	HS (518)			
162	čo γāyeb šod az dīde-ye šeix o šāb (399)	HS (519)			
163	zadand an delīrān-e āhan·kolāh (407)		AT (165)		
164	savārān-e Rūmī az ān rastaxīz (407)		AT (165)		
165	kasī jān salāmat az īšān nabord (407)		AT (165)		
166	ze tīr o nīze-ye šah šīr o naxjīr (411)	HS (522)			
167	čo rā-ye Xosrou Bahrām tadbīr (412)	HS (522)			
168	šod ān zamān ke ze ta'ṣīr-e abr-e gouhar·bār (416)				
169	benā-ye ʻadl rā ābād kardī (436)	HS (530)			
170	asās-e doulat-e šāhān-e jamjāh (437)			ZHS (67a)	
171	ṭāleʻ-e ʻālam monavvar šod be nīkū·axtarī (438)		AT (187)		
172	dar āyad agar došman-e tīz·čang (445)	HS (535)			
173	šāhā falak nīkxᵛāh-e to bād (445)	HS (535)			
174	labam fedā-ye zamīn·būs-e ḥażrat-e šāh-st (467)				
175	bā valīneʻmat ar berūn āyī (470)		AT (182)		TAA (428), XT (128)
176	ajal rā be jān āšnāyī šode (479)		AT (176)		
177	konad ham·jens bā ham·jens parvāz (481)				
178	čo beškoft bār-e degar gol be bāγ (488)	HS (543)			

179	afzūn ze ẕarre dar ʻadad o qaṭre dar šomār (490)		AT (188)		
180	hame kīne kūš o hame razm jūy (490)	HS (544)			
181	be pīš-e ʻadū bāzgard o begūyī (491)	HS (544)			
182	būyī ze nasīm-e bāde bas mastān rā (492)	HS (545)			
183	bā āl-e ʻAlī har ke dar oftād bar oftād (492)		AT (301)	ZHS (63b)	TAA (453)
184	ʻarrābe čo asbān-e čūbīn be kar (494)		AT (190)		XT (130)
185	be bālā-ye tousen bar āmad delīr (494)		AT (190)		
186	bar ārāst šāh-e falak eqtebās (496)	HS (546)			
187	bar amad ʻalamhā bar ouj-e sepehr (496)	HS (546)			
188	bar āmad be gardūn xorūš-e nafīr (496)	HS (546)			
189	forū rīxt xūn az dom-e tīγhā (496)	HS (546)			
190	man ān-am ke dar rūz-e peikār o kīn (497)		AT (191)		
191	sotūrān dar ān baḥr-e xūn tar hame (500)		AT (193)		
192	ze tīγ o tofakhā-ye āhan setīz (501)		AT (193)		
193	dar ān ʻarṣe az bahr-e mardān-e jang (501)		AT (193)		
194	be har jā ke šamšīr dar kār kard (503)		AT (194)		
195	šah-e šīr•del dar ṣaf-e kārzār (503)	HS (547)			
196	harčand bovad gavazn por zūr o delīr (508)	HS (548)			
197	jahān az nou navīd-e zendegī yāft (508)	HS (548)			
198	xojaste rā-ye ū bar xalq rāh-e fetne bar bandad (509)	HS (549)			
199	čo konad bande ke gardan nanehad farmān rā (511)	HS (551)			
200	fešord ānčenān qaḥṭ pā-ye ṣabāt (517)	HS (552)	AT (256)	ZHS (71a)	TIN (41)
201	valī āxar az čarx-e ā'īn nefāq (523)		AT (203)		
202	bar āmad māhī az ouj-e saʻādat (524)	HS (550)			
203	gol-e golšan-e šāh-e molk-e ʻArab (527)	HS (555)			
204	ke šāhā man az bahr-e īṣār-e to (528)	HS (555)			
205	ke bādā tābeʻ-e rāy-e to aiyām (528)				

206	ze bas košte dar ʻarṣe-ye šūr o šar (534)		AT (206)		
207	saḥargāh kin šāh-e anjam·ḥašam (537)		AT (208)		
208	dar ān anjoman bahr-e daffʻ-e gazand (539)		AT (210)		
209	ze eʻtedāl-e havā o ze dour-e čarx-e aṣīr (556)				TAA (439)
210	pā-ye andīše az ṣaʻūdaš konad (558)	HS (560)			
211	dar īn daqīqe bemāndand jomle-ye ḥokamā (560)	HS (561)	AT (237)	ZHS (93b)	
212	čenīn ast rasm-e sarā-ye sepanj (569)	HS (570)			
213	bedā deh zamān mamlekat kāmrānī (569)		AT (222)		
214	bas tajrobe kardīm dar īn deir-e mokāfāt (570)	HS (570)			
215	har kas rah-e exlāṣ o γolāmī pūyad (580)	HS (574)			
216	be tīγ-e ẓolm marā mīkošī o xᵛāhī dīd (590)	HS (583)			TzS (34), XT (939)
217	xodāʼī ke ʻarš-e barīn gāh-e ū-st (597)	HS (594)			
218	dar īn bahār golī bar morād-e kas našekoft (605)				TAA (1072)
219	bī hojūm-e ʻešq nayāyad barg-e sabzī dar samāʻ (606)				
220	darīγ ān šahanšāh-e ṣaḥeb·qerān (609)				LT (259), XT (600)
221	ze vīrāne-ye ʻālamaš būd ranj (609)		AT (238)		
222	bīsotūn nāle-ye zāram čo šenīd az jā šod (609)				TzS (11)
223	dar īn zamāne sar-e monkerān-e kāfer·kīš (609)				
224	dūš andar xᵛāb xᵛoš dīdam rasūl Allah rā (610)				
225	šāh-e ʻālam-panāh Esmāʻīl (610)		AT (239)		TAA (44), TA (21b)
226	šāhī ke čo xᵛoršīd jahān gašt mobīn (610)		AT (240)		TJ (281), XT (153)
227	čo šāh-e falak jāh-e anjam sepāh (610)				
228	ke gar nourūz-e solṭān raft bar bād (611)				

229	Ṭahmāsb šāh-e ʻālam kez noṣrat-e ālahī (611)		AT (241)		TAA (45), TJ (281)
230	gouhar-e dorj-e saʻādat axtar-e borj-e šaraf (612)				
231	zīr-e īn noh revāq-e mīnā·fām (612)				TAA(24a)☆
232	jā-ye ān ast ke ahl-e Eslām 612)	HS (602)			

この表が明瞭に示す通り、TI は他のどの史料とよりも HS, AT と密接な關係を有している。HS と TI の關係については、既にロッスが指摘していることでもあり(11)、また二書の成立順序も明らかなので、ここで改めて述べる必要はなかろう。問題は TI と AT の關係である。果してどちらが先に書かれたのであろうか。

TI と AT の間に關係のあることも既に Minorsky, V. によって指摘されている(12)が、彼は AT の著者が TI を利用したと見なしている。ところが、AT 所載の詩句のほうが TI に見られるものよりもベイト（對句）數の多い場合が十九例 (No. 5, 25, 39, 53, 67, 75, 96, 99, 101, 110, 131, 133, 141, 145, 149, 171, 200, 207, 211) に見られる。その反對例は、HS, AT 所載の詩を合成して作った No. 58, 62 のみであり、AT で一首になっているものが二首に分かれている例 (No. 38, 39) も存在する。これらのことは、TI のほうが AT よりも後で書かれたことを物語るものと考えられる。

さらに、次にその一部を引用する Eskandar Beig による、書家・文人として有名な Ṣādeqī Beig Afšār (九四〇―一〇一八／一五三三―一六一〇)(13) の紹介記事はこの推測を補強するのみならず、TI の製作時期を十七世紀にまで引き下げる。

Be qalam-e mūy·šekāf hezārān peikar-e badīʻ bar tavajjoh-e maqṣūd mīnegāšt va be zīvar-e qābeliyat o esteʻdād ārāste va be ḥelye-ye šāʻerī va soxanvarī pīrāste, qaṣāyed o γazal o maṯnaviyāt-e marγūb dārad. In beit-e maṯnavī dar *Jang-nāme* besiyār xūb gofte:

šeʻr

malaxhā-ye peikān ze parandegī
šode āfat-e mazra'-e zendegī
tabarzīn hamī gašt az rūy o pošt
yekī rā be tīr o yekī rā be mošt

(TAA, p. 175)

精緻な筆（致）で幾多の見事な人物畫を思いのままに（?）描いた。才能豊かで、作詩・辯論の才に富み、優れた頌詩・敍情詩・マスナヴィー體の詩を物した。『戰記』中の次のマスナヴィー體ベイトは實に良く出來ている。

詩

いなごの如く飛び交う矢は
　生存の畑の害虫となり
戰斧は前に後に動き回り
　一人を刃で、一人を拳で

この二つのベイトのうち、最初のものは表中の詩句 No. 16 と全く同一である。*Tazkere-ye Naṣr-ābādī*[14] のサーデグ・ベイグの項にもこのベイトを含む十八ベイトが引用されているが、このベイトはそのうちの第五、第八ベイトに相當する。あるベイトの前後に數ベイトを加えて作詩することの難しさ、サーデギー・ベイグが優れた詩人であったことなどを考え合わせると、このベイトをサーデギー・ベイグが他人の作品から取ってきたとは考え難く、TI の著者がサーデギー・ベイグの詩を利用したと考えるほうが自然である。Welch, A. によれば *Jang-nāme*[15] の書かれたのは一〇一〇／一六〇一—二年から一〇一八／一六〇九—一〇年の間であるから、[16] TI の製作時期は一〇一〇／一六〇一—二年以後でなければならない。

また、上表には TI と TAA のみに共通した詩句が五例（No. 16, 52, 89, 209, 218）認められ、No. 209, 218 の場合には、

それらの直前の文章がお互いに非常に似ている。これは TI と TAA の間にも關係のあることを示している。シャー・イスマアイルについてはマスナヴィー體の詩で綴った Mīrzā Moḥammad Qāsem Jonābādī 作 *Sāh-nāme-ye Esmaʿīl* があり、後世の歴史書中にしばしば引用されているが、TI の著者がこの作品を利用した形跡はない。(17) このことから推して、ベイト No. 16 は、シャー・アッバースに關する韻文で書かれた *Jang-nāme* から直接引かれたものではなく、TAA から取ったものと考えられる。もしそうならば、TI の製作時期は更に下がって一〇二五／一六一六—七(18)年以後になる。

さらに、サルワルが TI の著者名の一部を見出した

Pūšīde namānad ke ʿebārat-e nāmeʾī ke Qanbar āqā borde va rad o badal-e ū bā Solṭān Morād šod az bande-ye kamtarin Bījan (qeṣṣe-ye ṢF) ……nīst (p. 164)

以下のことが祕密裡に殘らないように。すなわち、ガンバル・アーガーの攜行した手紙および彼とソルターン・モラードとのやり取りの內容は、私（ṢF の物語の……）ビージャンの物ではない。

で始まる欄外書き込みは TI の製作時期がシャー・アッバース時代（九九六—一〇三八／一五八八—一六二九）以後であったことの傍證となりうる。この書き込み中に Xosrou Āqā yūzbāšī-ye γolāmān …… という記述があるが、サルワルは yūzbāšī と γolāmān を切り離して、yūzbāšī を「豹使い」と解した爲に γolāmān の解釋に困ったのであろう。英語譯文においてこの單語の存在を無視している。これは yūzbāšī-ye γolāmān と讀み、「γolāmān（奴隷たち）の百人隊長」と解すべきである。yūzbāšī という軍隊用語の用いられていることから推して、γolāmān はキリスト教からイスラームに改宗したグルジア人やチェルケス人で組織された王直屬の「奴隷軍（qollar）」を指すものと考えられる。この軍團の創設はシャー・アッバース時代とするのが通說であり、筆者も qollar がシャー・アッバース以前に組織されたことを傳える史料の存在を寡聞にして知らない。

おわりに

上に述べた如くTIの書かれたのがシャー・アッバース時代以後である以上、従來の如く本書をシャー・イスマアイル時代のイラン史研究の一等史料と見なすことはできない。すなわちそこに盛り込まれた内容は、先ずそれ以前に書かれた史書の記事と比較して、その眞僞を愼重に檢討してみる必要がある。例えば、TI (pp. 23—33) にはイスマアイルの四代の祖 Xᵛāje ʻAlī とティームールの三度にわたる出會いについて詳しく語られている。TAA (pp. 15—16) にも同じ話がより簡略な形で見られるが、その後で Eskandar Beig はこの話を散文もしくは韻文で書かれたサファヴィー朝の歴史文獻で見たことはないが、餘りにも有名なので書いた、と斷わっている。

最後に、まことに漠然とした假説ではあるが、TI の製作時期が Šāh Soleimān 時代（一〇七七—一一〇五／一六六六—一六九四）であった可能性もあるということを述べておきたい。先に TI の著者が Bijan qeṣṣe-ye ṢF ……（ṢF の物語の……ビージャン）という者であることを述べたが、ṢF は Ṣafavī である可能性が大きく、「サファヴィー家の物語……のビージャン」と再構しうる。[20] これと非常に似た名前をもった人物がいる。それは *Tārix-e Rostam Xān* の著者 Bijan tārix-e Ṣafavī xᵛān（サファヴィー家の歴史の語り手ビージャン）である。Dāneš-pajūh[21] によれば、本書の British Library 藏本（Add. 7655）は著者自筆のものであるが、それは一一〇四年の日附を持つ。もしこのビージャンが同一人物であるならば、上に述べた假説が成り立つが、それには兩書の文體、TI の British Library 藏本の著者自身による欄外書き込みと *Tārix-e Rostam Xān* の筆跡の比較等かなり面倒な作業を必要とする。*Tārix-e Rostam Xān* にも多數の詩が見られるが、TI と共通のものは No. 160 のみであり、詩の比較を通じて兩書の關係を探るのが不可能なことのみ指摘して、この問題は將來の研究課題として保留しておく。

註

(1) British Library 藏本 (BM. Or. 3248) および Cambridge 大學藏本 (Add. 200)。

なお、Dickson, M. B. は「テヘランにある Melli 圖書館の Bayānī 博士から同圖書館で *Ross Anonymous* の寫本が見附かったとの情報を得た」と述べているが (Dickson, M. B., *Shāh Tahmāsb and the Uzbeks. The Duel for Khurāsān with 'Ubayd Khān: 930—946/1524—1540*, Princeton Univ. Ph. D. Diss., 1 958, p. XLVII) 問題の寫本は 'Abd Allah Anvār, *Fehrest-e nosax-e xaṭṭi-ye ketābxāne-ye melli*, vol. 3, pp. 352—3 と *Tārix-e Šāh Esmā'il-e Ṣafavī* の名で紹介されている F. 1898 寫本をさすものと思われる。だとすれば、目錄に引用されている寫本の最初と最後の文およびその全體構成から見て、*Ross Anonymous* ではなく、Xvānd-amīr, *Ḥabīb al-Siyar* 第三卷第四部である。

(2) 一九八六年にイスラマーバードで BM. Or 3248 のファクシミリ版が出版されている。Allah Datā Muẕṭarr (preface & appendices), *Jahāngošā-ye Xāqān* (*Tārix-e Esmā'il*), Eslāmābād, 1986.

TI のページ數はこのテキストによる。なお、卷末に上記二寫本の異同表、人名・地名索引が附されている。

(3) E. Denison Ross, "The Early Years of Shāh Ismā'il, Founder of the Ṣafavī Dynasty," *JRAS*, 1896, pp. 249—340.

この論文には、イスマアイルがアク・クユンル朝の追っ手の追跡を逃れてギーラーンに行く話からギーラーンを出てアルダビールに戻ったイスマアイルが側近たちにそこからいずこに向かうかを諮る話まで (BM. Or. 3248, ff. 29a—50a, イスラマーバード版 pp. 58—100) のペルシア語テキストおよびその英譯が附いている。

(4) Ghulām Sarwar, *History of Shāh Ismā'il Ṣafavī*, Aligarh, 1939, pp. 9—11.

(5) Asgar Montazer-Ṣāḥeb(ed.), *'Ālam-ārā-ye Šāh Esmā'il*, Tehran, 1349 A. H. S.

なお、Yad Allah Šokrī (ed.), *'Ālam-ārā-ye Ṣafavī*, Tehran, 1350 は同一作品の異本であり、インディア・オフィス所藏の著者不詳のシャー・イスマアイルの詳細な歷史 (I. O. 1877) は後者の一寫本である。

(6) Ross, ibid., p. 250.

(7) Sarwar, ibid., p. 10.

(8) イランでは通常 Zeil-e Ḥabib al-Siyar と呼ばれている。本稿ではテヘラン大學中央圖書館にある Tübingen 大學本 (MaIII b43) のマイクロフィルムを使用。

(9) Ross, ibid., pp. 250—251.

(10) より詳細な ZHS の文章のみ譯出した。

☆ 筆者所有の TAA 寫本 (全三卷のうち第一卷のみ) f. 24a による。刊本には見當たらない。

(11) Ross, ibid., pp. 251—2.

(12) *BSOS*, IX/1 (1937), p. 254. (C. A. Storey, *Persian Literature: A Bio-Bibliographical Survey* の紹介・批評)。

(13) Ṣādeqī Beig Afšār の生涯と業績については次の論考を参照されたい。

Tourkhan Gandjeï, "Notes on the Life and Work of Ṣādiqī: A Poet and Painter of Ṣafavid Times", *Der Islam*, LII/1 (1975), pp. 112—118.

Anthony Welch, *Artists for the Shah: Late Sixteenth-Century Painting at the Imperial Court of Iran*, London, 1976.

(14) A. H. 1083/1672〜3 年に書かれたサファヴィー朝時代の詩人約千人の傳記。

Mīrzā Moḥammad Ṭāher Naṣr·ābādī Eṣfahānī, Vaḥīd Dastgerdī(ed.), *Taẕkereye Naṣr·ābādī*, Tehran, 1317 A. H. S., p. 40.

(15) シャー・アッバースの諸々の戰をマスナヴィー體の詩で綴ったもの。

(16) Welch, A., ibid., p. 70.

(17) 表中 HS を始めとする十二作品の何れにも見られない TI 所載の詩句 (No. 1, 15, 29, 34, 36, 37, 65, 83, 91, 93, 94, 116, 127, 136, 150, 152, 157, 168, 174, 177, 205, 219, 223, 224, 227, 228, 230) は何れも *Šāh·nāme-ye Esma'īl* 中に見出せなかった。なお、*Šāh·nāme-ye Esma'īl* は東洋文庫所藏 British Library 本 (Add. 7784) の寫眞を用いた。同寫眞の使用に關して便宜を圖って頂いた志茂碩敏氏に感謝の意を表する。

(18) Eskandar Beig が *Tārīx-e 'ālam·ārā-ye 'Abbāsī* を書き始めた年。

(19) 括弧内は筆者による。

(20) シャー・サフィー時代にアゼルバイジャン總督にまで出世したグルジア出身のロスタム・ハーンの傳記。詳しくは Storey, C. A. の前掲書 vol. I, p. 318 を参照。

(21) *Fehrest-e mīkrofīlmhā-ye ketābxāne-ye markazī va markaz-e asnād-e dānešgāh-e Tehrān*, vol. 2, 1353 A. H. S., p. 283. なお、Dāneš·pajūh はその根據を擧げることなく、「この Bījan は *Tārīx-e Esma'īl* の著者らしい」と述べている。

DETERMINING THE PERIOD IN WHICH SHĀH ISMA'ĪL THE FIRST'S CHRONICLE, KNOWN BY THE TITLE *ROSS ANONYMOUS* WERE WRITTEN

HANEDA Koichi

The purpose of this paper is to determine the period in which Shāh Isma'īl's chronicle, known by the title *Ross Anonymous* (because the title originally attached to the chronicles was missing), were produced.

Since the end of the last century, this chronicle was thought to have been written during the era of Shāh Ṭahmāsb. As an historical record, it has come to be regarded as having an extremely high value. However, I think that the basis used by E. D. Ross and Ghulam Sarwar to determine the period in which this book was produced is vague, and therefore scope to reconsider the dating of this book exists.

Up to now, this book has been dated by comparing its prose with that found in other works, the dating of which have been verified. However, it is difficult to date this book based solely on the above method. Therefore a method was adopted where all of the 232 verses which appear in this book were examined to see, firstly if they appeared in other books and secondly, whether the authors of these verses could be identified. The result was that this book was not, as had up till now been thought, produced in the Ṭahmāsb era, but in fact dates from after 1620.